＜小論文の書き方＞

＜基本方針＞

* **必要な要素：背景・導入→問題提起→問題・原因分析→解決策**
* 書き方：背景・導入→本論→予想反論（たしかに、こういう意見もある）→再反論（しかし）。ただし、無理して当てはめない。
* 要約問題パターン１：要約だけ要求されている場合は、純粋に要約のみする。意見・提言は必要なし。論文中で、関係のない議論に引き摺られないことが大切
* 要約問題パターン2：**要約→課題文の主張への賛否→その根拠→対立意見・予想反論とその対応→結論**。
* 意見を述べよ系：技術的には、設問の言葉をそのまま使って答案構成すると良い。「あなたの考えを述べよ」と聞かれたら「と考える」と答える。設問と答案に厳密な対応関係があると試験官は「聞かれたことにしっかり答えてくれた」と喜ぶので差がつく。

＜Tips＞

* 1つの論述で、1つの主張。
* できるだけ簡潔な表現を選択。
* 字数は、制限字数のプラスマイナス1割以内。

＜読解＞

* 論文のタイトル・著者等をネット検索→適宜キーワードで飛ぶ。有名論文や専攻の関連論文である可能性あり（そこまで広げて理解する必要はないが）。
* PDFの場合はDeepL翻訳で日本語でも確認。
* 関連キーワードをネット検索（TMIの好きそうな最適化、意思決定理論、AI,シミュレーション、エージェントモデル、ウェブマイニング、ネットワーク分析、計量経済学、実験経済学、意思決定理論、マッチング理論等の使われそうなキーワードを拾う）。

＜出題分析・仮説＞

* 「大御所の歴史的論文」と「最近の論文」が出題。
* 前者は(数理的)原理の理解（ページランク（2020）、マッチング理論（2021））、周辺の学術領域を踏まえて**現在**使われる手法との比較（2020）や**現在**の社会課題への適用可能性（2021）を出題。（ポイント：現在に使われるか、現在の社会背景の理解が頻出）
* 前者は日本語の解説HPなども多数存在するので、（間違っている可能性もあるため）複数を参照しながら読み解くことでリソース節約。本論文もきちんと読み込んでおく。
* 後者は、学術的な追加考察（2020、アブストのみで回答）、要約（2021）や関連領域に関する問いが出題（ポイント：内容理解＋自由作文問題になる傾向が多いが、内容に関する出題は読めないので背景含めて幅広に理解しておく）。
* 対策として、前者は特にその後の学術的背景や関連論文（教科書）も含めて読んでおく。後者は論点を書き出しながら、内容を要約しておく。どちらも出題形式は読めないので決め打ちはしない。

＜想定設問＞

* 当日は圧倒的に時間がないので、どこに何が書いてあるか読み込んで把握しておく。
* 課題論文について、**段落ごとの要約を作成しておく**。
* 図表を全てチェック。確率・統計に絡められそうな図表（センテンス）は要チェック、数理的問題については事前に場合分けして準備。
* 数学的問題を想定して、論文の数学的理解の文献をネット検索して探しておく（証明や各種パターンを全て書き出して地道にできるかぎり把握、知っていないと難しい出題）。

以上